

## アンケート調査の実施状況

## 1 アンケート調査概要

- (1) 趣旨：基本的な考え方や事業内容など、基本方針の検討に活用するために実施。  
 (2) 期間：平成 28 年 6 月 11 日～（9 月 1 日）  
 (3) 方法：インターネットで無記名による選択及び記入式回答による意見提出

## 2 調査結果概要（H28. 8. 5 現在 92 件）

## 【1】「北海道 150 年」を知っていますか

	知っている	詳しくはわからないが、 聞いたことがある	知らない
回答数	36	21	35
割合	39%	23%	38%

## 【2】次の世代に伝えたいもの（こと）

<主なキーワード>

- ・北海道の自然環境
- ・開拓の歴史、先人の労苦や努力
- ・先住民族アイヌの歴史、アイヌ文化
- ・開拓後の主要産業（炭鉱等）の栄枯盛衰
- ・第一次産業、食

## 【3】「北海道 150 年事業」への視点、事業のアイディア

<主なキーワード>

- ・北海道の歴史、開拓の歴史の発信
- ・アイヌ文化
- ・これからの北海道を支える人物を育てる教育

## 【4】「北海道 150 年道民検討会議」「北海道みらいワーキング」へのご意見

<主な意見>

- ・イベントの実施は低予算に抑える必要がある
- ・行政主導でやると難しい資料が多い
- ・事業の効果を一過性のものとしなないためにも、関係者のみの内輪ごとにならないよう注意を図るべき

## 【5】お住まいの地域

	道央	道南	道北	十勝	林-ツ	道東	北海道外
回答数	43	16	2	4	9	6	12
割合	47%	17%	2%	4%	10%	7%	13%

## 【6】年齢区分

	～14	15～19	20代	30代	40代	50代	60代	70以上
回答数	0	4	19	17	16	20	13	3
割合	0%	4%	21%	19%	17%	22%	14%	3%

## 【7】ご職業

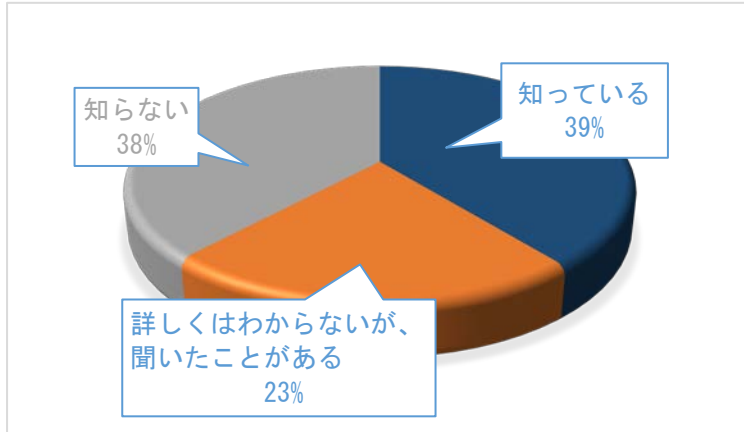
	中学生	高校生	大学生・ 大学院生	会社員・ 会社役員	公務員・ 団体職員	自営業	その他
回答数	0	2	4	16	50	6	14
割合	0%	2%	4%	18%	54%	7%	15%

# 北海道 150 年事業に関するアンケート調査 実施状況（詳細）

28.8.5 現在 アンケート提出総数：92 件

## 1 「北海道 150 年」を知っていますか

本道が、2018 年（平成 30 年）に、「北海道」と命名されてから 150 年目の節目を迎えることを知っていますか。



## 2 次の世代に伝えたいもの（こと）

あなたが次の世代に伝えたい大切なもの（こと）は何ですか。（特にない場合は記入不要です。）

【意見】

・ 自然環境の保全 ・ 第一次産業の継続性
・ 元気なこと。やる気があること。
・ 北海道がここまで発展できたのは、先住民族のアイヌの方々が大自然を守ってきたことと原生林を切り開き肥沃な大地に開墾した、全国から入植された開拓者の努力あってのものであることを、再確認するための歴史を残していきたい。
・ 北海道にはアイヌという先住民族がいたこと。後から北海道に入ってきた和人とアイヌとの争いの事実。明治になって北海道を開拓した時の中心人物は薩摩藩出身者であったこと。北海道開拓では、目先ではなく、先を見て人を育てることに力を入れていたこと。
・ 開拓精神、進取の気象、自主自立心が喪失していると感じます。北海道開拓時代の何人もの偉人の働きを読本（とくほん）としてまとめ、小中学生に対する教材としたり、全集図書にして一般頒布できればよいと思います。
・ 北海道の持つ可能性。素晴らしさ。
・ 北海道の歴史や文化、先人たちの思いや郷土愛など
・ 北海道の雄大な自然、世界に誇れる食文化
・ 過去・現在まで先住民族が住み、蝦夷地の積雪寒冷地で生き抜いてきた先人の知恵と努力を継承しながら、北海道の豊かな自然環境と、国内ばかりではなく特にアジア地域から見えるお客様が一応に絶賛する道産材を使用した農業産品や食品開発の労苦など。
・ 東京や札幌にばかり行かないで、地域創世も頑張ろう？
・ 大自然、農業自然など、北海道にのみ残されている景観を残さなくてはいけない。
・ 北海道の歴史・文化
・ 先人たちの苦勞・知恵・努力（偉人だけではなく、普通の道民をクローズアップしてほしい）、先人たちが考えていた北海道の可能性
・ フロンティアスピリット、ポジティブなところを、後世に伝えたい。
・ 何事も最後まで諦めず、やれる事は全てやる事 ・ 何時までも失敗にこだわらず、切り替えて次の事に当たる ・ 事前に広く情報を収集・分析して将来を見据えた戦略を立て、確実に実現させる戦術を練る

## 北海道 150 年事業に関するアンケート調査 実施状況（詳細）

28.8.5 現在 アンケート提出総数：92 件

<ul style="list-style-type: none"> <li>・北海道の最大の魅力は<b>大自然</b>に有り。この豊かな大地を大切にしながら新しい事に挑戦してほしい。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・都会とくらべると就学就職、旅行レジャー、文化活動…とすべてにおいて劣るのは事実です。ですが、「北海道がないとみんな困ると思う」というCMがあったように、人が生きる上で必要な、<b>心と体を豊かにする自然や食べ物</b>があること。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分自身も主人公であるということを考えていただきたい。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>自然豊かな大地</b>に農業と産業を根付いたことで、150 年前と今のギャップは、日本の中でも北海道が一番大きいと感じています。今の都市生活と 150 年以前の自然共生のどちらがよいのかは判りませんが、日本全体の流れに必ずしも迎合せず、特別な大地に住む私たちが、これからの道を、自身の頭で考え、決めていく気概が大切だと思います。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・北海道の<b>入植時の歴史</b></li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・北海道の<b>雄大な自然環境</b></li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>開拓前と開拓後の北海道の歴史</b></li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・未来の世代に高齢者、障がい者、子供のことを考えて欲しいと思います。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>北海道開拓の歴史</b></li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・北海道は住みやすくてすばらしい場所であること！</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>アイヌの文化</b>や北方領土の歴史など</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>有り余るほどの自然</b>、多種多様な動物たち、色とりどりでもとても美味しい食材</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本人(北海道民)としての<b>アイデンティティ</b>。自然の豊かさ。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>アイヌ人と和人の争いの歴史</b></li> <li>・本州で後継ぎになれないなどの事情でやむなく<b>北海道に渡ってきた人々の歴史</b></li> <li>・満州、樺太などから引き上げてきた方々や<b>開拓農家の歴史</b></li> <li>・我が国の成長を支えた<b>炭鉱の歴史</b></li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・広大な大地</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「北海道 150 年事業 基本方針（議論のたたき台）」の基本姿勢にある「<b>未来志向</b>」はとても重要と考えます。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・恵まれた環境、北海道のありがたみを思うこと。</li> <li>・地方の地域を大切にすること、残すこと。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>開拓の精神</b>の重要性、「困難があるからこそ、その先に幸福がある。」の一言</li> <li>・結婚・出産・子育てもいいことばかりではないですが、人生にとってこの上ない幸福感に満たされる瞬間が多々あり、若いうちにチャレンジして欲しいことです。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>開拓の歴史</b>の伴う先人の労苦は伝え続ける必要があると思います。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・北海道の産業開発の歴史、<b>アイヌ文化</b>、<b>国内に比類なき大自然</b></li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>歴史</b>を知れ</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>アイヌの歴史</b></li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・戦後 71 年になるが、戦中は北海道も空襲を受けた。空襲による被害は、東京空襲などと比べると小さかったが、亡くなった人や被害が少なからずあったので戦争は絶対にしないことを次世代に伝えていきたい。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヒトも自然の一部でしかないので、やれ環境保護だ地球温暖化だなんだというエセエコロジーに惑わされないでほしい。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・限られた資源を、大切に有効に使っていききたいものです。このためには、無駄をなくし（必要なものを節約することではなく、必要としないものを省く）必要な資源を有効に活かしていく気持ちを育てて頂きたいと思います。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>北海道のアイヌの歴史と倭人による開拓の歴史</b></li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界の中の北海道という意識が重要。グローバルな視点をもつことが大切。<b>北海道開拓の歴史</b>をしっかりと学び道産子アイデンティティーを確立してほしい。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界中を見渡してみても、こんなに自然に恵まれた素晴らしい島はほかにはないのだということを具体的にしっかりと伝えて、次世代の人達に強く当事者意識を持ってもらうようにしたい。</li> </ul>

## 北海道 150 年事業に関するアンケート調査 実施状況（詳細）

28.8.5 現在 アンケート提出総数：92 件

・北海道の開拓の歴史、アイヌの歴史（自分もよく知らないですが…）
・北海道の開拓時の苦労や開拓後の主要産業（漁業・農業・炭鉱等）の栄枯盛衰の状況。
・誇りを持てる自治体に：現行の環境に甘んじることなく、 <b>自然環境</b> 、文化・教養、経済面等で、首都圏にひけをとらない、住みたい街・移住したい街にしていけることが大切だと思います。
・厳しい <b>自然環境</b> と闘い、原野を切り開いて、我々に現在の恵まれた環境を残してくれた <b>先人の努力</b>
・ものづくり&作ったものを修理しながら大切に使い続ける“心と技術”
・北海道の豊かな自然が生み出す恵みである「食」を次世代に伝えられればよいのではないかと考えます。（特に北海道の「海」と「水産物」を次世代に伝えていければと思います。（若い人を中心に「魚離れ」が進んでいると聞きますので。）
・道産子気質（魂）、 <b>開拓者精神</b>
・北海道の <b>自然、歴史、文化</b>
・北海道の魅力は当然ですが、正しい情報とさらに次の世代へ伝えていくことの大切さ
・ <b>緑豊かな広大な大地</b>
・ <b>アイヌ民族</b> ・箱館戦争 ・北方領土返還
・ <b>自然環境</b> と人の温かさ
・道内の各地を <b>開拓されてきた先人たちの苦労話</b> 。
・ <b>アイヌ民族との関係や開拓の歴史、開墾の苦労</b> などを残して欲しい
・ <b>アイヌ民族の文化</b> 、縄文遺跡などの古代文化、江差追分などの伝統文化などの文化を大切に守り、継続して将来に伝えていくことが大事。文化は即時的にはインバウンドに寄与する。また、地元の魅力を再発見することで地域の歴史、文化を掘り起こすなど地域の活性化にも繋がり、人間関係も繋がっていくことで心も豊かになるので、地域文化を見つめ直し、繋いでいく重要性を次世代にも継承していくべき。
・この 150 年間で北海道ほど成長を遂げた地域は先進国にありません。それは言うまでもなく、 <b>開拓精神と開拓者の尽力</b> の賜物です。この誇るべき実績を踏まえ今後飛躍させる必要があります。
・ <b>先人の苦労と努力</b> 、生活と産業、文化の歴史。次世代に向けた標題となるもの、あるいは新たな産業の参考となる今昔の歴史。
・ <b>豊かな自然</b> を活かした遊びや体験（昆虫採集、登山、釣り、川遊び）
・屯田兵からの始まりと、拘りの少ない風土
・北海道の <b>大自然</b> 、特に大雪山系、知床半島
・これまでに全国に果たしてきた北海道の貢献とそのための尽力されてきた道民の姿
・北海道の歴史が 150 年というのは日本全体から言えばほんのわずかなものかもしれないけれど、意味のあるものだと思うこと。住んでいることが誇らしくあること、そうでありたいこと。
・北方領土問題の早期の解決が、検討すべき問題です。それには、歴史的な背景があります。戦後 71 年も経ち、いまだに北方領土を元に戻すことができない。もう、二度と北方領土はもどってこない可能性があります。樺太・千島列島のことはありません。択捉島・国後島・歯舞群島・色丹島の 4 島です。これを今の世代で何とか道筋を着けたいと思います。
・北海道 150 年以前の古代の人々や先住民族の歴史、文化、その上に「近代」日本を支えてきた北海道開発の歴史、150 年の間に築かれてきた産業・文化・生活の遺産
・北海道開拓や高度成長期など明治時代以降の北海道の発展の歴史・文化を後世に伝えるべきです。また、黒田清隆をはじめ多くの他都府県の人材の貢献を改めてクローズアップさせることが必要です。
・勉強をする意味
・明治の初め以来、青森県から沖縄県までの 46 都府県から 3 百万人を超える多くの人々が北海道に移住し、今日の 179 市町村の礎を築いた歴史は、国内の歴史上他に例がない。今年北海道新幹線が開業しさらに札幌まで延伸さ

## 北海道 150 年事業に関するアンケート調査 実施状況 (詳細)

28.8.5 現在 アンケート提出総数 : 92 件

れようというこの時期に、これら開拓・移住者の歴史を今一度市民目線で掘り起し、北海道の観光振興などに繋げると共に、本州との絆を道民の貴重な財産として継承することを次世代に伝えたい。

### 3 「北海道 150 年事業」への視点、アイデア

「北海道 150 年」を節目とする記念事業を行う場合に、大切だと思う分野や視点、又は具体的な事業のアイデアなどがあればご記入ください。

#### 【主な意見】

・ 記念事業という位置づけで道立施設の改修事業の実施
・ 記念事業という位置づけで北海道道の改修事業の実施
・ 各道立学校での北海道 150 年記念イベントの実施
・ 「道民カレッジ」北海道 150 年記念インターネット講座の開催
・ 若い世代にめをむけた P L A N を！！
・ 松阪市にある「松浦武四郎記念館」の職員の方々を招待し武四郎氏に関する諸々のことを紹介してもらおう。
・ 松阪市にある「生家」が武四郎氏生誕 200 年の 2018 年に向けて整備保存され一般公開されるということなので、その紹介をしてほしい。
・ 三重県からは、明治の時代に多くの開拓団（三重団体）が入植されたり、昨今では厚真町で「武四郎だんご」販売している方や、美瑛町で夏のみ「給食室」という民宿をされている方等がいるので、北海道から三重で活躍されてるかたと合わせて懇談会を開いては如何か。
・ これからの北海道を支える人物を育てる教育システムおよび内容を検討し、2018 年からスタートすること。明治時代にアメリカの農務省からケブロンやダンを呼んで酪農を北海道に根付かせ、クラークを呼んで国際的に活躍できる人材育成を図った。北海道 150 年を記念するのであれば、単なる 1～2 年で終わる行事ではなく、 <b>これからの北海道を支える人物を育てる教育のスタートの年にすべきである。</b>
・ 140 年前の人物が将来の日本を考えた人材育成を行った。札幌農学校からは新渡戸稲造を代表とする世界で活躍する人物が育った。もう一度、 <b>将来の北海道、日本を支える人物を育てる教育</b> を行ってもいいのではないだろうか。
・ <b>北海道の歴史を改めて検証し、啓蒙・啓発する事業</b> を望みます。
・ 各分野各世代による横断的な議論により、多くの人が当事者意識を持ちこの事業に関わること。
・ <b>開拓からの歴史を北海道の歴史と決めつけるのではなく、それ以前のアイヌ民族の歴史も考慮</b> することが肝要である。
・ 札幌オリンピックなどで世界的知名度も高まった北海道の「これから」をどのようにすべきかこの機会を利用して道民全員で議論することも肝要であると考えます。
・ 北海道の最大の武器、誇れる長所は雄大な自然だと思います。日本各地はもちろん、海外からの観光客も多く訪れる魅力をとて身近に感じられることを活かす事業を展開していくべきだと思います。
・ 北海道は不思議な島で、年間 1000 万人を超える観光客が来道するのに、北海道の人口減少が急速に進んでいる。つい最近まで 570 万道民と言っていたのにすでに、550 万を切り、根本的にこれからの人達がそこで暮らしてゆくような生産産業が育っていないのではないか？イマイチド、これでよいのか北海道を考える必要があるのではないか？
・ 北海道の宣伝
・ 新しいことというよりは、原点に立ち返って、北海道の魅力を見直し、それを磨きなおす取り組みが将来の北海道につながると思います。
・ 最近の北海道は、観光地化しすぎてとても残念に思うところが多々あります。商売根性丸出しな人が多かったり、ガイドブックに載ってる市場は、観光客しかいかなかったり。もっと、地元の人にも愛される場所も知りたい。
・ <b>先住民族の生活や開拓の歴史</b> など、学校で詳しく教えられていないものについて、再認識できるような催事を各地域で行うなど、全道で記念事業を展開。

## 北海道 150 年事業に関するアンケート調査 実施状況 (詳細)

28.8.5 現在 アンケート提出総数 : 92 件

<p>・視点 : 150、オール北海道、道民が楽しめる、観光客増が期待できる、日本初、マスコミが発信しやすい、SNSで拡散しやすい</p>
<p>・事業 : 150機のドローンが舞うイベント(シドニーで開催:ドローン100機)、150匹ワンチャン(北海道犬)大集合、道民生活(ライフスタイル)の変遷を知るイベント(アイヌ~明治~平成)、北海道ゆかりの芸能人・スポーツ選手等による聖火リレー、1次産業と巨大アートの融合、全道各地での同時フラッシュ・モブ(ダンス・クラシック演奏)、YOUTUBEと連携した北海道PR動画コンテスト、明治時代の北海道展(当時の身の回り品・手紙などを道民から収集)</p>
<p>・後世に残しておける樹木の提供があるとうれしい。以前の記念事業でもあったと思うが、地方で土地に余裕があるところでは、樹木の提供が記念事業としてはよいのではないかと。</p>
<p>・観光、農業、環境、広域行政</p>
<p>・<b>北海道開拓に尽力した市井の人々を発掘して照明を当てる</b></p>
<p>・北海道が生んだ偉人(思想家、政治家、アスリート、芸術家、芸能人、学者等)を紹介する</p>
<p>・将来に向けて北海道が大きな役割を果たす可能性を秘めた大樹町の航空宇宙産業をPRする</p>
<p>・酪農振興を図るため、輸入トウモロコシから機能性発酵飼料(WDGS)を生産して飼料コスト削減、副産物のエタノールをガソリンに混合して二酸化炭素を削減する</p>
<p>・北海道の各種観光資源(自然景観、野生動物ビューポイント、地域固有産業、レジャー施設等)を高速交通ネットワークで結んで新たな周遊観光ルートを創出する</p>
<p>・記念事業は道民全体で祝えるようにするべきだと思う。中心部だけで記念事業を行っては端々の道民は自分には関係ないことと思うことになる。北海道民一丸となってお祝いできるように、記念日一日だけ各家庭に紙で出来た北海道旗を掲げてもらうのもいいと思う。</p>
<p>・行政特有の堅苦しさはいらないと思います。北海道の成り立ちについて、一切学校で学んだことがないので、わかりやすいマンガ(より読みやすい4コマ集でも)だと子どもも手に取りやすいと思います(以前、函館の成り立ちのマンガを読みましたが、大変おもしろかったです)。また、北海道は市町村数が多すぎて名前もどこにあるかもしまいわからないので、「北海道桃鉄」のようなアプリを作り、特産品や名所などもわかるようにし、さらにそこから特産品を買える通販サイトも見られるとおもしろいと思います。</p>
<p>・<b>北海道の歴史と可能性を発信できる事業</b>を期待したいです。北海道は広大で道庁を中心に考えると、どうしても札幌中心になるかと思っています。過疎地に住む人間にとっては、遠く離れた街のお話しに感じるかもしれません。ALL北海道を考えていただけるようお願いしております。</p>
<p>・子どもたちに何でもいいから、人が思いつかない楽しくて新しいことを考えてもらうよう小学校の授業で取り扱ってもらうのは如何でしょうか。人と違うことが当たり前で、かつこいいことだと、同じことがつまらなくて恥ずかしいと思えるような、それぞれの個性が認められるような、そんな拓かれたチャレンジングな北海道を目指して。</p>
<p>・函館で行われているような歴史を背景にした住民参加型の野外劇などできたら良いかと思っています。</p>
<p>・既存事業に冠をつけるのは、簡素に実施できる事業として良いとは思いますが、例えば大規模な植林を行い「北海道150年の森」とするなど、箱物以外で後世に残るような事業も検討してはいかがでしょうか。</p>
<p>・観光資源としての<b>アイヌ文化</b>と食文化の融合事業          ・<b>アイヌ文化</b>の伝統意匠を食文化に融合した観光資源の創出</p>
<p>・道民として、<b>北海道の歴史</b>を再認識する良い機会だと思うので、幅広い年代、地域が参画できる事業展開が必要と考えます。          ・<b>北海道開拓使・アイヌ文化等を広く道民に認識できる事業展開</b>を望みます。</p>
<p>・<b>アイヌ文化や開拓史などをメイン</b>に、どう北海道が発展したのか、また、その発展の過程でなにが起こったのかなどを今一度振り返ることが大切だと思います。<b>北海道の開拓</b>は人間と動物の領域が混ざり、多くの問題が起きました。今、熊の問題などありますが、開拓の中でもわかるように、熊を例にして言えば、人間が必要以上に熊の領域に入らなければ熊は襲ってきませんし、また、人間が熊がかわいいからと餌付けをすれば、熊はその餌のうまさ覚え、人里におり、人間に危害を加えることが起きれば、殺されることもあります。こういった過去のことを、</p>

## 北海道 150 年事業に関するアンケート調査 実施状況 (詳細)

28.8.5 現在 アンケート提出総数 : 92 件

<p>振り返り、現在に反映させるのに良い節目かなと思います。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・また、<b>アイヌは、北海道の原住民族であり、北海道にしかない、アイヌにしかない文化、語源</b>を持ちます。それらも重視していくのが北海道を記念する大切な行事に必要なことだと思います。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>開拓から現在までの発展を模したパネル展や、アイヌ文化の体験会</b>など</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 道産食材についても含めていただけると、ありがたいと思います。</li> </ul>
<p>【全体的な視点】今後 50 年 100 年を見据えて北海道をどのようなあり方にしていくのか</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「空知」のように、広域連携をしながらの雇用・観光・農業などの政策創り、PR</li> <li>・ 日本の中では比較的新しい開拓地として、移民の積極的な受け入れを行う</li> <li>・ 農業分野の IT 事業の知識・フィールド集約。ノウハウの海外移転</li> <li>・ 道内を行き来しやすい交通網の整備(短距離航空や自動運転を活かす)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本道は、他県と比べても極めて歴史が浅いことから、謙虚な気持ちを忘れず、有名企業ばかりではなく、地元根付いた個人商店などをクローズアップしていただきたい。</li> <li>・ 事業の開催に当たっては、札幌市以外の市町村にお住まいの方も楽しめる内容となるようお願いいたします。</li> <li>・ 具体的な事業</li> </ul> <p>記録映画制作</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 道内で 4 代、又は 100 年以上続いている企業、商店や農家、漁師などの日常やインタビューを記録し、各地の公民館や学校で上映し、道民の皆さんに楽しんでいただく。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自然への畏敬の念</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 過去の経緯等、様々なことがあると思いますが、やはり未来に向けたメッセージが重要と考えます。そこで、「輝きつづける北海道」や「その先の、道へ。北海道」というフレーズに込めた想いを、「北海道の未来予想図」として、赤レンガ庁舎を活用したプロジェクションマッピングで映像として視覚的に示してみてもどうかと思います。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 北海道 150 年という事すら知りませんでしたので、まず、しっかりとそのことを周知することだと必要だと思います。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ベタではあるかもしれないが、道内全市町村すべて余すことなく参加する物産店(出店?)の催しやお祭り</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第一次産業、漁業、農業等と北海道がどのように発展してきたか経緯を示すことが大切だと思います。今後北海道がどうして行くべきか(未来図)を見たいです。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 未来を担う子どもや若い年代のお父さんやお母さん主体の事業を企画して頂きたいです。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 他県の方と一緒に事業を行うこともできたらいいなと思います。個人的な経験ですが、佐賀市の方とお話しした際、初代開拓使長官の鍋島のお殿様や島(義勇)判官の話題を出すと大変喜ばれました。松浦武四郎以外にも、いろいろな可能性があるかと思います。</li> <li>・ それから、イベントをすとしたらきちんとしたプロデューサーがいた方がいいと思います。予算を掛けるべきところには掛ける必要があると思いますが、一方で業者の言いなりにならないよう気をつける必要もありますので、公民問わず発注の経験豊富な方の意見を聞いた方がいいと思います。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高齢化、過疎化を踏まえた持続可能な地域のあり方。交通の維持、除雪や自然災害の対策費などを公開のうえ、コンパクト(集約)化の意義を丁寧に説明し、実現化を目指す。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>ウタリ関係</b></li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実際に招いてお話を聞かせてもらう</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 子供が楽しめる。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ やはり<b>アイヌの人達と北海道は切り離して考えられない。アイヌの言葉や文化を全面に出していきたい。</b></li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ご当地ソフトクリームで道内の酪農を支援する。</li> <li>・ チーズ工場を作って、チーズの低価格化に努める。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 将来への展望(夢)を描けるようなイベントの企画、人口減少の傾向を最小限に止める施策(具体的には、困難な問題だと思いますが、今の状態では現象の一途を辿るのではなからうか?と危惧するところです)節目のこの機会に、抜本的な対策が望まれます。</li> </ul>

# 北海道 150 年事業に関するアンケート調査 実施状況（詳細）

28.8.5 現在 アンケート提出総数：92 件

<p>分野・視点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・北海道のアイヌの歴史と倭人による開拓の歴史</li> <li>・北海道に入植した人々の出身県はどこか。どういった県から多かったのか。</li> <li>・入植するに至る歴史的な背景。</li> <li>・食文化</li> <li>・言葉</li> <li>・地名の由来</li> </ul> <p>事業</p> <p>北海道出身の芸能人を起用</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・北海道開拓の歴史・文化の学び、きづきを新たにできるようにする。そして未来に向けて考え発信する。そのために、まずは道民が北海道の歴史・文化を学べる機会の設定。その資源を観光に生かすようなPR事業。(道内・道外・海外へ発信) さらには、開拓の歴史で重要な役割を果たした道外の関係地やアメリカマサチューセッツ州等の海外への道民の視察交流訪問団の実施など、様々な交流事業の促進に期待する。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「松浦賞」の創設～北海道の歴史的発展に大きく貢献した民間人を道あるいは公設の委員会などが毎年表彰する。対象分野は限定せず、産業、経済、観光、学術、文化、教育など、多岐にわたる。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・北海道という名前になった由来など</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・未来を見据えた今後の主要産業の展望、世界規模からの観光客の需要を見据えた、観光資源の見直し（建て直し）事業、北海道にしかないもの（見れないもの）の発掘と再構築。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業名：北海道 150 年の「木づなりレー」</li> </ul> <p>概要：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■各「市町村の木」を活用した植樹リレーとして、179 市町村それぞれで制定する「市町村の木」を、首長が抽選などして交換植樹する。マチとマチを「木」と「木」でつなぐ「木づなりレー」。</li> <li>■150 年にちなんだ本数、人数などで実施（150 本では少ないので 150 本×10 ヶ所分）</li> <li>・事業費：各苗木 150 本の代金（179×1,500×苗木平均単価 350 円？ = 100,000 千円） 植樹に必要な雑品購入費を各市町村へ交付（179×500 千円 = 100,000 千円）</li> <li>■「市町村の木」が植栽地域に制約のあるような場合（ブナ、スギほか？）や、同じ樹種のマチ同士は考慮が必要か（例えばナナカマド（33 市町村くらい）は、それ以外の市町村群から抽選とか。）</li> <li>■「市町村の木」を制定していないマチは、この機会に（H30 までに）制定を促してみては？</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・道内外幅広く北海道に対する意見等を募り、道外から見て北海道が日本あるいは世界都市の中でどのような位置づけにあるのかを認識するとともに、北海道が力のある自治体で今後もあり続けるうえで何に注力をするべきかという視点を持つことが大切だと考えます。また、北海道の文化・芸術や地場産業を発信するにあたっては、北海道の優位性を表現する一方、道民のみに通ずるといった、自己満足に陥らないよう気をつける必要があると考えます。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本人入植前のアイヌの人々の暮らし、自然環境と日本人入植による開発の歴史とその功罪（開発によって得られたものと失ったもの）</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本で唯一といってもよい、開拓地ということで、先住の方々を忘れないように啓発を行う必要がある。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・とにかく話題にしてもらうこと。情報が溢れている世の中、なりふり構わないくらいの心で話題作りをしないと埋もれてしまう。</li> <li>・著名人の力を借りて盛り上げる。嵐に来て貰うのは難しくても、道内出身の TOKIO 松岡や生田斗真なら協力してくれるのでは？（若者に人気のある人じゃないと駄目。〇〇〇〇は微妙、〇〇〇〇や〇〇〇〇では論外）</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・記念事業の実施に当たって、北海道の成り立ちや独自の文化などに焦点を当てるのもよろしいかと思いますが、上記のような「自然」・「食」の大切さなどを取り上げるのもよいのではないのでしょうか。</li> <li>・事業としては、例えば、北海道の「食」を支える人（生産者、加工業者、料理人等）とのつながりや「食」を支える自然とのつながりを感じられるような催しを行うというようなものがあげられると思います。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・明治政府直轄の「開拓使」以来、国策によって開拓され、発展し、利益を享受し、本州に資源（石炭や食料など）</li> </ul>



## 北海道 150 年事業に関するアンケート調査 実施状況（詳細）

28.8.5 現在 アンケート提出総数：92 件

<p>を供給してきたという自負・プライドを、改めて道内外に示す事業であって欲しい。</p>
<p>・北海道の歴史、文化を語る上でアイヌのことは欠かせないはずですが、今まではあまり表に出ていなかったように思います。しかし近年、アイヌ文様等が北海道遺産に登録され、国でも白老にアイヌ象徴施設の建設を計画するなど理解や認識が進んできていることから、これらの動きを強く後押しするために北海道 150 年の節目に道旗変更（現行からアイヌ文様等への変更）の是非を問う道民投票を行うことを提案します。</p> <p>・ちなみにニュージーランドでも国旗変更（ユニオンジャックから先住民マオリゆかりのシダ柄への変更）の是非を問う国民投票が行われたばかりです。北海道 150 年は道民自らが北海道の象徴である道旗としてなにか相応しいか改めて問い直す絶好の機会ではないでしょうか？</p>
<p>・アイヌ民族の方々の理解と協力を得ながら、北海道が広く一体となっていくことが大切。一般道民を巻き込んだ草の根的な事業展開がなければ、行政のかけ声だけで終わってしまうのでは。</p>
<p>先人への感謝と未来へつなぐ事業として、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全道小中学生 作文・絵画コンクール テーマ（例）「未来の北海道」</li> <li>・写真コンテスト テーマ「北海道」</li> <li>・全道市町村首長 一言コメントリレー</li> <li>・179市町村 お宝自慢大会（179市町村のお宝紹介 集結）</li> <li>・179市町村 1万円コンテスト（全道179市町村 其々1万円で何をするか）</li> </ul>
<p>・北海道が生んだ大作曲家伊福部昭が、幼少の頃、アイヌの人々と交流し共感を持って書かれた名作「シンフォニア・タブカーラ」をメインとした演奏会の開催。札幌コンサートホールで、同じくアイヌに共感し擁護した、松浦武四郎の写真展を展示室で行う。指揮は広上淳一、オーケストラは札幌交響楽団、曲目は、山本直純「白銀の栄光」（札幌オリンピック開会式テーマ曲）の後、伊福部昭の「交響譚詩」「ヴァイオリン協奏曲第1番」「シンフォニア・タブカーラ」。「シンフォニア・タブカーラ」の前に指揮者、三浦洋氏（北海道情報大学教授）の対談による曲の解説を入れ、アイヌの人に松浦武四郎の人となりについて語ってもらう。演奏会前には、厚岸の風土を描いた「土俗的三連画」を口ビーで室内楽により演奏する。</p>
<p>・アイヌ民族、箱館戦争、北方領土返還に係る展示など</p>
<p>・日本だけでなく世界に発信することが重要だと思います。</p>
<p>・道内各市町村で、記念事業として建造したもの……。一つ一つ挙げてみると、こんなもの造って良かったのか。と思うもの たくさん？在るのではないのでしょうか。</p>
<p>・『北海道の日』に学校等を休校として、博物館や美術館、動物園などの施設を無料開放にして『北海道の日』の意義を考えながら、楽しんで欲しい。</p>
<p>・「北海道150年事業」としては、点として存在している歴史文化遺産をストーリーとして整理し、線として繋ぎ、各地域（歴史文化遺産）毎にストーリーに沿ったイベントを開催することで、函館や札幌から地方に観光客が流れるような事業に仕立てることが地方創生の観点からも求められていると思う。（鹿児島県では150年前に実際にあった出来事をイベントとして開催（40事業、助成金額計28百万円）。）</p> <p>・また、地域に眠っている歴史文化遺産を掘り起こし、見つめ直すための「場」を創出し、発信し、将来に繋いでいくことが重要。そのためには歴史文化遺産の保存・伝承や文化資産を翻訳するファシリテーター（ミュージアムマネジャーやヘリテージ・マネジャー）の人材育成を行う事業を継続的に実施し、アイヌの民族象徴空間施設整備、札幌冬季オリパラ、北海道新幹線札幌延伸に向け、より一層、地域文化の振興を図ることが必要。</p>
<p>・新時代のフロンティアスピリットに期待します。</p> <p>〈課題先進国〉日本は様々な問題を抱えています。</p> <p>これまでのやり方、考え方を超えた新たなフロンティアスピリットが期待されます。</p> <p>共通の課題やチャレンジを抱える世界の国や地域と連携してイノベティブなソリューションを提示しましょう。それによって日本国内での北海道の発言力もアップすることでしょう。</p>
<p>・北海道の素晴らしさは「大自然・素朴さ・力強さ」というのが多くの北海道外の人々の持っているイメージでしょう。ですがそれを本当の魅力に変えるには緻密な戦略が必要で、メディア戦略をとことん練り上げることが大切だと思います。プロの意見を聞くのはもちろんですが、アイデア次第でローコストでできる方法は多くあります。</p>

## 北海道 150 年事業に関するアンケート調査 実施状況 (詳細)

28.8.5 現在 アンケート提出総数 : 92 件

<p>・記念映画や TV まで難しいので、次世代に向けた教育的なものとするために子供たちへ、我町の歴史やこれからの提言などの作文や読書感想文とか、歴史研究などのほか「紙芝居」や「DVD 映画」を募集する。同じように企業にも募集を行い、150 年祭において大々的な発表会を開催し、北海道の P R や教材に活用する。これら教育的、観光 P R の観点から各市町村へ協力を求める。</p>
<p>・視点 年齢や性別、居住地に関わらずなるべく多くの人が参加できるきっかけがあるとよいと思います。</p> <p>・事業アイデア 記念植樹、宝くじ、北海道の景勝地や建造物の絵画コンクール、メディアとのタイアップによる記念番組や北海道出身アーティストによるコンサート、150 年記念を象徴するもの（五輪では聖火）を渡していく全市町村を回るリレー、ファイターズやコンサドーレなどの一流選手によるスポーツ教室、記念硬貨や切手の発行</p>
<p>一次産業分野の必要性と日本の食糧基地的な将来展望。 三次産業の観光分野をベースとする場合、北海道の自然力を十分に発揮することを目指し、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 150 年の全道民参加形の緑化事業（例：記念植樹/一戸） ---- 足跡</li> <li>・ 他都府県に対し観光誘因する 150 年特別企画 ----- 活性化</li> <li>・ 道民が道内各地の再認識のためのスタンプラリー ----- 北海道再認識</li> </ul> <p>単にお祭りごとによる、瞬間的な費用投下は避けるべきと思う。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 移住定住体験事～空家、空き別荘の活用（掃除、修理など体験者が行う）、住宅費など助成を 3 年間程度継続。</li> <li>・ 全道のフットパス踏破参加者募集と体験者の W E B 実況国内外発信</li> <li>・ 道立施設のスタンプラリー</li> <li>・ 漁業保護育成のため、植林及び下草刈りなど保全の参加者募集</li> <li>・ 水源地保護のため、探索ツアー及び地権者との顔合わせ事業</li> <li>・ 海岸及び河川環境保全清掃ツアー</li> </ul>
<p>・ 北海道庁の存在意義を理解いただくため、激動の道政における成功と失態、それぞれの時代に奮闘された道職員をモデルとしたノンフィクションドラマ等を道内テレビ放送局共同で製作し放映してほしい。 その他、北海道のために功績を残された方をモデルにしたドラマ等もよい。</p>
<p>・ 昔に比べて小学校で子供たちが地元北海道について学ぶ機会が減り、社会科副読本「わたしたちの北海道」も無くなったと聞き、次代を担う子供たちに地元愛が育まれるのか心配です。子供たちに北海道の大切さを教える教材作成に取り組んではいかがでしょうか。</p>
<p>・ とりあえずできることから始めるのが一番なのではないでしょうか。すでにある P M F、雪まつりなどのイベントに積極的な参加がやりようによってはできると思います。排雪システムや溶雪システムのアイデアを大通り公園の一丁目ごと小規模な企業に作ってもらうというのはどうでしょうか。NHK の ○ 対 □ の番組のように競ってもらい市民、道民、観光客に試してもらい意見をもらうのです。企業にとってもよい宣伝になると思うのですが。それから、観光システムを一本化してもらいたいです。バス同士がぶつかりあうことなく客優先のシステムにしてください。札幌市内でいえば、バスセンターのこともなんとかならないでしょうか。募集事項 150 なんてのはありませんか。</p>
<p>・ 現状の社会は、高齢者が 25% 以上です。高齢者を上手に取り入れる参加型の事業を検討する事だと思う。高齢者が働く又、反対に消費者になるという形態です。肉体労働をいかに機械化にすることです。でも、設備コスト等の問題があり、難しいと思います。より一層の集団化とグループ化が必要です。機械化が進めば人が要らないことはありません、細やかな所に高齢者が必要になります。北海道ですから、酪農・農業等いろいろな産業にも、必要となります。</p>
<p>・ 道民や道内を訪れる観光客などが縄文文化や <b>アイヌ先住民族</b> に対する理解・認識を改めて深めてもらう機会とすべき。</p>
<p>・ 北海道 北加伊 <b>アイヌ</b> 語で カイがこの地で生まれた人という意味だとすれば、道として改めて、これからの北海道を牽引する人づくりを目指すべきで、特に基幹産業の農業や観光などの人材育成事業を打ち出すべきです。例えば北海道の良質な大豆を使って京都では高級な豆腐を作っているなど全国で道内の食材が活用されているが、</p>

## 北海道 150 年事業に関するアンケート調査 実施状況（詳細）

28.8.5 現在 アンケート提出総数：92 件

道内ではレストランや食品製造業が本州などに比べると見劣りするのが現状である。それを打開するためには、優秀な料理人・職人などを育成する必要がある。道外の料理人・職人を道内に移住してもらったり、道外の店に料理人・職人を研修派遣するなど、道内の良質な素材に見合った最高の料理などを食べられるよう、道として「北の加伊人材育成事業（仮）」を打ち出すとともに、開拓から 150 年間の農業の集大成として道内の良質な素材を活用した究極の料理の祭典を開催してほしい。

・明治 2 年(1869 年)8 月に蝦夷地から北海道に改められると同時に、同年 7 月に開拓使が東京に置かれ、翌明治 3 年から北海道への移住が始まったとされることから、**開拓・移住の歴史**も 150 年の節目を迎えるという視点が重要である。記念事業の柱として「開拓・移住者の歴史再生事業」を創設し、北海道遺産への登録及び「開拓・移住者の歴史情報検索サイト」の創設を提案したい。具体的には、まず道内 179 市町村に埋もれている開拓・移住者の歴史を市民目線で掘り起し、本州の移住元と道内移住先との関係を詳細に調査・整理し北海道遺産として登録する。次に、これらの情報をホームページや SNS を活用して道内外に発信し、情報共有し、市町村の連携・交流や市民レベルの新たな交流を呼び起こし、道内移住先への観光を促進し、ふるさと納税や北海道への移住を呼び込むことで新たな北海道発展の原動力とする。

### 4 「北海道 150 年道民検討会議」「北海道みらいワーキング」へのご意見

「北海道 150 年道民検討会議」「北海道みらいワーキング」の議論、資料等へご意見があればご記入ください。

#### 【主な意見】

・イベントの実施にあたっては低予算に抑える必要があると考える
・毎回の会議では、議事に沿って委員が意見表明するが、各テーマについて事前に市民から意見を収集しておき、会議で各委員の意見と並べて紹介し、検討の俎上にあげてはいかがか。
・松浦武四郎は明治政府に対して 6 つの地名（海島道、千島道、海北道、日高見堂、北加伊道、東北道）アイデアを提示したといわれているので、今新たに新・北海道名を公募してみてもどうだろう。
・行政ベースで動くと、どうしても縦割りになってしまい、抜け漏れが生ずるので、そこをお互いの努力で埋めるような取り組みをして欲しい。
・アプリを作るのであれば、今まで見たことのないような徹底的に面白いものを作ってください。
・「試される大地」から、「その先の、道へ。北海道」のキャッチフレーズが生きる事業を企画していただければうれしい。
・元気な北海道であるよう、自然の豊かさをいつまでも持続していける環境の保護。観光は、決してホテルやみやげ物屋、レストランだけが伸ばしているわけではないので、第 1 次産業の手を掛けた豊かな美しい自然をアピールできる、説明できる人材の育成に尽力してください。
・150 周年事業については新聞にも掲載されていたが、こうしたアンケート調査やみらい日誌などは周知が足りていないと思います。少なくとも私は道の twitter でしか見たことがありません。
・会議やワーキングを振興局が設置されている地域で持ち回り開催されるのはいかがでしょう。
・行政が主導でやると難しい資料が多くなり、固くなってしまいます。まずは、広告代理店に委託して主導権を託し、子どもや学生の意見が強く反映できるような仕組みを検討してみても如何でしょうか。 ・歴史と文化は大人より今後長く生きていく子どもたちのためのものですから。
・分県に向けた議論の活発化
・何をしているか外側からは見えてこないもので、もっと情報発信をしてもらえると、周知できるのではないのでしょうか。
・議論の主体が北海道の方ばかりなのが気になります。また若い方の割合が少ない印象もあります。 イノベーションは、異質なものの交流から生まれるので、このような会議を開催する際の参加者の多様性をもっと確保することが大切なのではないかと思いました。

## 北海道 150 年事業に関するアンケート調査 実施状況 (詳細)

28.8.5 現在 アンケート提出総数 : 92 件

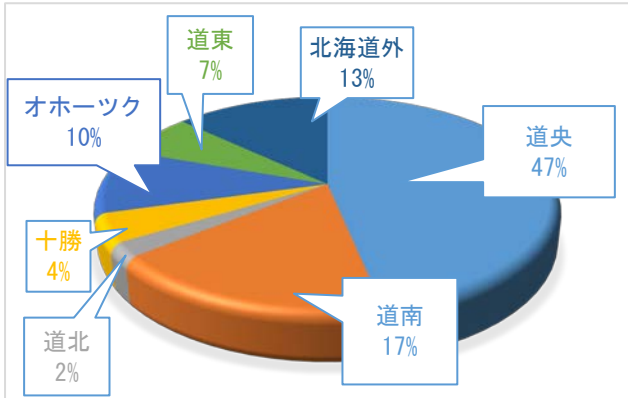
<p>・参考意見として扱っていただいて結構ですが、各資料が何の資料か視覚的にイメージできるよう「資料1 ●●●」とした方がわかりやすいと思います。</p>
<p>・未来思考もいいのですが、すでに成熟社会になっていると思いますので、その中で北海道の存在意義を考えるという方法もあるのではないのでしょうか。(そう考えると、未来と現在とで、そうは違わないような気がします。)</p>
<p>・立派な資料を拝見しました。十分な構成がなされると思います。</p>
<p>・道民の意見等を集約・反映させるうえ、委員構成、あるいはアンケート募集要項等を道内重視にしていることは理解できますが、当事業の効果を一過性のものにならないために、協議内容や実施内容が<b>関係者のみの内輪ごとにならないよう注意を図ることが必要</b>だと思います。</p>
<p>・資料をいちいち開かないと中身がわからないので、目次を付けて欲しい。</p>
<p>・要望として、もっと皆さんが意見を出しやすい形(資料)にしてほしい</p>
<p>・人口や健康の未来予想と、それでも北海道を発展させるアイデアについて</p>
<p>・本当の北海道の良さ、すばらしさを認識・確認できるのは、「・・・会頭」、「・・・理事長」なのでしょうか? 地元で長く生活されておられる方々は、全てが当たり前で、細かな点でのすばらしさを、アピールできるのでしょうか・・・ その辺から脱却してスタートしませんと多くの日本国民(あるいは外国の方)の心に響く「言葉」にならないのでは。</p>
<p>・[3] に書いた視点(※事務局注:新時代のフロンティアスピリット~)から、グローバルな視点を入れて検討して頂きたいものです。 具体的には、北海道への留学生、元留学生、在北海道の外国人ビジネスマン、かつての北海道民など。実際に物理的に集まることは難しくとも、メール、スカイプ等でコストをかけずに意見を集めることは容易です。 私も含めて元北海道民で北海道に対して熱い思いを持ち、意見を述べたい人は多いと推測します。</p>
<p>・未来の北海道に思うこと ■ホスピタリティの教育 北海道を訪れて感じるのは、素材(食材、自然など)の素晴らしさに比べ、そのホスピタリティの低さです。朴訥さこそが道産子気質でしょうし、話してみると心が温かく優しい人達だということがわかります。ですがそういったことを理解せず「おもてなしレベルの低さ」にがっかりしてしまう人もいます。素朴さにサービス精神が加わったら素晴らしいことです。そしてそれは意識的に教育していかなければいけないことだと思います。 ■教育水準の向上 フィンランドが学力第1位になったり、秋田県が学力を上げてきているように、行政の努力によって学力を上げることができます。教育水準が上がると、それを求めて人が集まりますし意識も変わってくるでしょう。古い歴史を持たない北海道ですが、教育レベルを上げることで新しい文化が創られていくと思います。「学力日本一になる」ことを推進してほしいです。</p>
<p>・観光的なイベントが中心との声も聞こえて来る。少予算であっても出来ることはあるので、やりっぱなしの行事だけではなく、のちに続くものとして欲しい。</p>
<p>・観光という項目があれば、北海道全体の観光、芸術などのボランティアの方々が意見を言い合う場所を設定してください。多くのボランティアの人たちが一生懸命北海道のためにがんばっていますが、それぞれ個々にやっていて、中にはあまり知られていない、ちょっと残念なものもあります。現場での意見を大切にほしいと思います。</p>
<p>・小磯座長(北海道大学)の意見がとても、感銘しました。その中で第二次世界大戦の前と後ろで切断されたような見方の文言です。本当に、北海道がソ連に取られた可能性もあります。今、若者に理解されないかも知れませんが、先生も私も頑張って活かしたいと思います。</p>
<p>・上記の人づくり事業のほか、北海道の開拓や高度成長時代など明治時代以降の歴史・文化に目を向け「北海道ミュージアム構想」を打ち出すとともに、関わりの深い鹿児島県などの交流事業なども議論、検討してほしい</p>
<p>・[3]で提案した「開拓・移住者の歴史再生事業」を進めるにあたって、最も多くの移住者を送り出しており、また函館まで新幹線開業で距離が大幅に近くなった「東北」を特に重視した事業にまず力を入れる必要がある。具体的には、東北との連携会議などの場で「開拓・移住者の歴史再生」をテーマの一つに掲げ東北との連携のもとに進める。</p>

# 北海道 150 年事業に関するアンケート調査 実施状況（詳細）

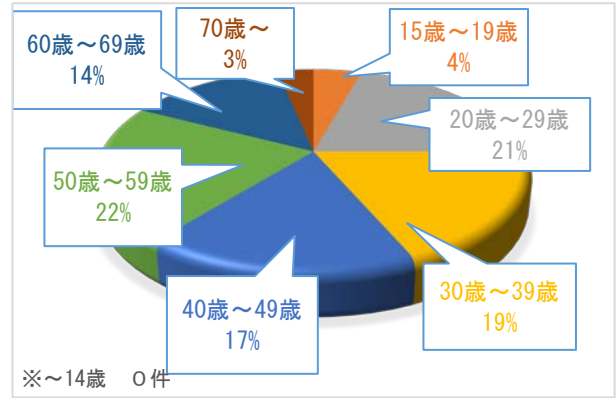
28.8.5 現在 アンケート提出総数：92 件

東北での北海道物産展等のイベントの際に、「開拓・移住者の歴史」ブースを設置することを提案したい。また、「開拓・移住者の歴史再生」は本州の移住元の住民のみならず、移住先の北海道民自らにとっても必要とされることではないかと思われる。即ち自分の祖先が明治の時代に北海道に渡ってきたとしたら、そのルーツを知りたい、その出身地を訪ねてみたいという思いは多くの道民が自然に抱くものであると思われ、ここで提案した事業は、本州並びに道内の双方の住民の願いに応えるという観点から検討されることが望ましい。

## 5 お住まいの地域



## 6 年齢区分



## 7 ご職業

